

避難訓練

～ 11月1日(火) 休み時間 ～

ストーブも入り、いよいよ教室で火を使う時期になりました。火事の多くなる季節のはじめに行う避難訓練でした。

特に、今日は、いつ訓練があるかを知らずに、それも、休み時間に行う訓練でした。非常ベルが鳴り、グラウンド・教室が一瞬に静かになると、腰を下ろして放送を聴く姿勢

になれました。すばらしい行動でした。集合場所から先生と避難するところでは、少し話し声もありましたが、学級での避難ではないので、これくらいであれば大丈夫だと感じました。自分の命、周りの人の命を守るために、今日の避難訓練をふり返り、自分は「非常ベルで、すぐに静かにできたか」「座って放送を聴くことができたか」をもう一度確認してみてください。

先生方の「大きな声での報告」「きびきびした行動」等から、火災が起きたときの避難の緊張感を感じることができたと思います。訓練をしっかりやっておかないと、いざというときにいきないからです。火事には十分に気をつけて、冬期の学校生活を送っていきましょう。

【学校長の講評から】



資源回収、ご協力ありがとうございました。



最近の学校生活から



10月22日(土)戸倉創造館で**こども環境サミット**が開催されました。本校からは、環境委員会が参加し、「牛乳パック・ふた集め」「節電の呼びかけ」「栽培・飼育活動」等の活動を紹介してくれました。

11月2日(水)あんずホールで**市小学校合同音楽会**が行われました。校内音楽会が終わってから練習を続けてきたリコーダー奏「オペラファンタジー」と合唱「飛行船」を堂々と発表してくれました。



11月3日(木)**將軍塚祭り**にトランペット鼓隊が参加しました。屋代駅～科野の里までをパレードし、歴史広場で1ステージを披露しました。鼓隊の皆さんにとっては、本年度最後の演奏となりました。



つい子どもの行動に頭にきてしまうときなど、冷静になれる方法など
あったら教えていただきたいと思います。

先生は、イラッとするとき、どうやって対処しているんですか？



だれもが年を重ねていくと、自分の心と向き合い、
自分を抑えることが多くなるのではないのでしょうか。
それは、老いてエネルギーを失うというより、多く
の経験から冷静に判断することが増えるのでは…と思うのです。

「今カリカリといらだってみても、よい方向に、ことはすすまな
い。いつしか嵐が通り過ぎるように、あわてず待てば解決するとき
がくる」と思えるようになっていきます。

しかし、ことの渦中に入り、一生懸命になればなるほど、だれでも声は大きくなり、言葉は荒くなって
いきます。外側から客観的に眺めているのとは違い、自分
が何とかしなければと思えば、冷静ではられません。

自分で起き上がれるよ！



そんなとき、「怒って、この場が収まるのか？」「怒ったことで、後悔しな
いか？」…と考え、「しばらく様子を見守ること」とどちらがよいか天秤にか
けます。「**怒ってみても、いいことはない**」と、これまでの経験がよみがえっ
てくると、違う方法を考えてみようという気になります。子どもは時間をか
けて、成長していきます。1年後には、見違える程、成長しているものです。

本気で叱らなければならないときもあります。そのときは、叱られる側も
涙を流すでしょうけれど、叱る側の心も涙でいっぱいになります。

子育てには悩みがつきもの。よかったと思うことより、悲しいことや残念な
ことの方が多いような気がします。しかし、そうした気持ちを味わいながら
も、わが子を思い続ける心が、少しずつ親自身の内面を充実させ、子ども
のちょっとした成長が、この上もなくうれしくなっています。

子育ては親育ち！

子育ては、「**子どもを育てる**」と同時に「**自分を
育てる**」ことであり、親育ちの実感もてると、

子育てが楽しくなります。過ぎてみれば、手がかかるのはいつか。
子どもは手を離れ、遠くに旅立って行ってしまいます。そのとき親
は思います。「よくぞ、私の子どもに生まれてきてくれた」と…。

